

ロータリー財団補助金委員会マニュアル

財団補助金委員会委員長 田島敏久

I.ロータリー財団とは

1917年、当時のロータリー会長、アーチ・クランプが「世界でよいことをするための」基金の設置を提案。この基金が1928年に「ロータリー財団」と名づけられて国際ロータリーに組み込まれ、現在のロータリー財団にいたっています。

日本では2010年12月24日に「ロータリー日本財団」が内閣府より公益財団法人として認定を受け、寄付者に対する税制上の優遇措置を得ることが可能となっています。

II.財団の歴史

1929年、財団は初の補助金500ドルを国際障害児協会へ贈りました。この協会は、ロータリアンだったエドガーF.“ダディー”アレンが創設したもので、後に「イースター・シールズ」（米国の慈善団体）となりました。

1947年、ロータリー創設者のポール・ハリスが亡くなると、多くの人びとから国際ロータリーに寄付が寄せられました。この寄付は「ポール・ハリス記念基金」となって、その後のロータリー財団の発展のために役立てられました。

1985年：世界でポリオの撲滅をめざす「ポリオプラス・プログラム」を設置。

※2020年8月25日 WHO アフリカ地域の野生型ポリオ根絶が認定された。

残るは南アジアの2国

1987～88年：初めての平和フォーラムが開催され、これが「ロータリー平和フェローシップ」創設のきっかけとなる。

2013年：世界中のロータリアンがグローバルなニーズに応えられるよう、新しい補助金モデル（地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラント）を導入。

III.ロータリー財団の使命と運営・管理

1. ロータリー財団の使命

ロータリアンが、世界で健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

2. 国際ロータリーのロータリー財団管理委員会

ロータリー財団の運営は、財団管理委員会の下で行われますが、財団はRIに対する

報告義務があります。管理委員会の構成メンバーは15名で、RI会長が理事会の承認を得て管理委員を任命します。そのうち4名はRIの元会長です。管理委員長は元会長歴任者の中から選ばれるのが慣例になっています。任期は4年です。

IV.地区ロータリー財団委員会の役割

第2780地区ロータリー財団委員会

- (1) クラブがロータリー財団の戦略計画を理解し、地区補助金やグローバル補助金を活用した奉仕プロジェクトを企画、実行していただくため、ロータリー財団セミナー、地区補助金説明会や地区補助金管理セミナーを開催する。
- (2) ロータリー財団の使命を担う多くの会員に、シェアシステムなどの仕組みを正しく理解していただきロータリー財団への寄付推進をお願いする。
奉仕プロジェクトや寄付の功績を顕彰する。
- (3) 地区補助金の各クラブへの配分額については、ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、ガバナー補佐及び地区ロータリー財団委員会メンバー全員で協議の上決定する。
- (4) グローバル補助金の申請については、クラブからの事前相談（必須）に応ずる。
- (5) ガバナー目標とロータリー賞の奨励。
- (6) 年度初めにシェアシステム計画年度配分大枠を決める。
地区ロータリー財団委員会、ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニの了解において機関決定とする。
- (7) 財団学友会と密接な協力関係を維持し、かつ、支援する。

以上の役割を果たすために以下の地区委員会を設置しています。

A. 大委員会 地区ロータリー財団委員会

- ① 地区財団委員会を統括する。
- ② 必要に応じて地区財団委員長は正副委員長会議を招集する。
- ③ 年間スケジュールを作成する。
- ④ DDF 配分の大枠案を作る。
- ⑤ セミナーや説毎回を企画する
 - 1.ロータリー財団セミナー 年1回 7月
 - 2.地区補助金説明会 年2回 10月 1月

3.地区補助金管理セミナー 7月と1月(クラブの希望がある場合)

- ⑥ 地区補助金規定の改定
- ⑦ ハンドブックの改定
- ⑧ ガバナー目標とロータリー賞の奨励
- ⑨ 財団特別功労賞・財団功労賞・財団奉仕賞の候補者を選考して顕彰する。

以上③～⑨項の立案を中委員会に委託することが出来る。

B. 中委員会・補助金委員会

5つの小委員会を統括する。

補助金配分委員会

平和フェロー・奨学金委員会・VTT委員会

補助金管理委員会

資金推進委員会

ポリオプラス委員会

大委員会からの委託を受けた場合、適切な担当小委員会を指名する。

補助金配分・VTT委員会

- ・地区補助金プロジェクトの募集を企画し、クラブから申請のあった奉仕プロジェクトをサポートする。
- ・予備選考会を開催する。
- ・プレゼン選公選考会を開催する。
- ・地区補助金のクラブ別配分案を作成する。
- ・スポンディングプランを作成する。
- ・グローバル補助金プロジェクトの場合必須となる予備申請を受けつける。
- ・VTTに関する全般を統括する。

平和フェロー・奨学金委員会

- ・地区補助金奨学生とグローバル補助金奨学生の募集と選考を行う。
- ・奨学生をサポートする。
- ・平和フェロー奨学生を募集する。
- ・平和フェロー奨学生をサポートする。
- ・財団学友を支援する。
- ・奨学生・財団学友の活躍をクラブ会員に広報する。

補助金管理委員会

- ・クラブで実施した地区補助金プロジェクトの管理に関する全般を統括する。
- ・完了報告書作成を支援する。

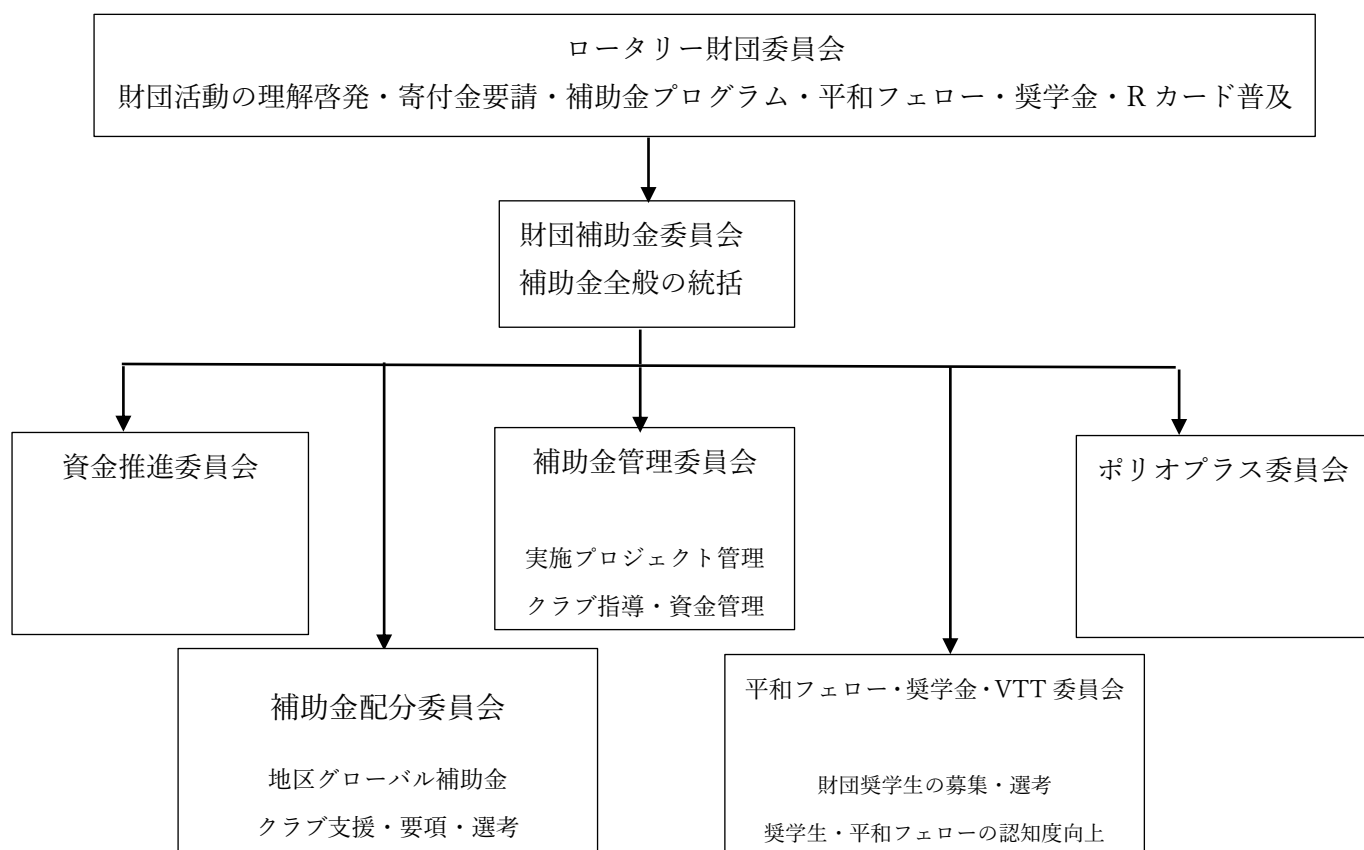
資金推進委員会（ロータリカードを含む）

- ・財団活動を啓蒙する。財団月間に限らず卓話者をクラブに派遣する。
- ・ガバナー目標を達成するため、資金推進に関する全般を統括する。
- ・クラブや会員の表彰や認証を推薦する。
- ・財団月間のクラブ卓話依頼に関する情報を統括管理する。
 - 卓話資料を作成する。
 - 卓話者を適切に割り当てる。
- ・年に1回顕彰することが出来る財団特別功労賞・財団功労賞・財団奉仕賞の規定を作り、候補を挙げる手続きをする。
- ・ロータリー賞を推進する。

ポリオプラス委員会

- ・ポリオプラス活動を支援する。

国際ロータリー第 2780 地区 ロータリー財団関連委員会組織図



V.クラブロータリー財団委員会の役割

ロータリー財団の理念と仕組みをクラブ会員に対して理解を促進する。

- ① クラブ会員に「シェアシステム」「財団プログラム」「寄付の使途」等ロータリー財団の仕組みを理解してもらう。
- ② ロータリー財団の地区補助金及びグローバル補助金を理解し活用を促してクラブ会員全員が参加する奉仕プロジェクトを促す。
- ③ クラブのロータリー財団寄付の目標を設定し、クラブセントラルに入力するとともに、その目標を達成する努力を各会員に促す。
- ④ 奉仕活動推進のためのロータリー財団への年次寄付等、地区目標をクラブ会員に理解してもらう。

地区目標

年次寄付 200 ドル以上/1 名
ポリオ寄付 40 ドル/1 名
恒久基金 1000 ドル以上/1 クラブ

- DDF の活用
- ・ DDF の 20% をポリオプラスへ寄贈
 - DDF の 20% をポリオプラス基金へ寄贈した地区には感謝状が贈られます。
 - ・ ロータリー平和センター、重点分野への寄贈
 - 「日本ロータリー平和センター基金 (E11659)」の累計が、150 万ドルに達すると、毎年この基金からロータリー平和フェローを 1 名支援できます。
 - ・ 各地区が DDF を使い切る。
- 補助金活動
- ・ グローバル補助金・地区補助金の活用の促進
 - ・ ロータリー平和フェローシップの推進

ロータリー財団の目標

第一の優先事項は、もちろんポリオ根絶です。

第二の優先事項は、2025 年までに恒久基金を 20 億 2500 万ドルとし、年次基金とポリオプラスへの寄付を増やすことです。そのために、包括的なファンドレイジング目標を 4 億 1000 万ドルに定めました。

第三の優先事項は、ロータリーの補助金によってもたらされる測定可能なインパクトを高めることです。

ロータリー財団への寄付

皆様からご寄付頂いた資金は寄付の種類により、資金使途が異なります。

① 年次基金寄付金：ロータリーの現在の活動を支援する

地区補助金・グローバル補助金などクラブの奉仕プロジェクトを支える基金です。

3年間資金を運用して、その運用益はロータリー財団の管理運営費に充当されます。3年後に元金全額を地区補助金・グローバル補助金等地区やロータリー財団で使います。3年前の年次基金寄付（元金）が私たちの地区に配分される仕組みはシェアシステムで示されます。

年次基金（シェア）へのご寄付はロータリー年度末に、国際財団活動資金と地区財団活動資金に分けられます

② 恒久基金寄付金：ロータリーの未来を支える

基本の元金となり、恒久的に維持されます。これは財団が将来も確実に活動が続いていくための備えとなります。

元金は使わず、1年間の運用益のみが地区財団活動資金（DDF）とロータリー財団で使われます。ただし運用益はゼロの場合もあります。シェアシステムを参照してください。

2025年までに恒久基金の資金20億2500万ドルを集めることが目標

③ ポリオプラス基金：ポリオ撲滅を支援します

ポリオ撲滅活動を支えるための基金です。

ロータリーが1979年から取り組んでいるポリオ撲滅への活動はあと少しです。

※2020年8月25日WHO アフリカ地域の野生型ポリオ根絶が認定された。

残るは南アジアの2国

2020年

パキスタン	84例
アフガニスタン	56例

わずか60円ほどのワクチンで一人の子供を生涯ポリオから守ることができます。

④ 用途指定寄付：特定の活動分野を支援する

ロータリーの優先活動の中から、寄付先を選んで寄付することができます。

- A. ロータリー平和センター
- B. グローバル補助金のクラブからの寄付 (Cash)
- C. その他

VI. 公益財団法人ロータリー日本財団

一般的にクラブ会員からの寄付は公益財団法人ロータリー日本財団を經由してロータリー財団に全額寄付されます。そして、確定申告時に税優遇措置制度を受けることができます。

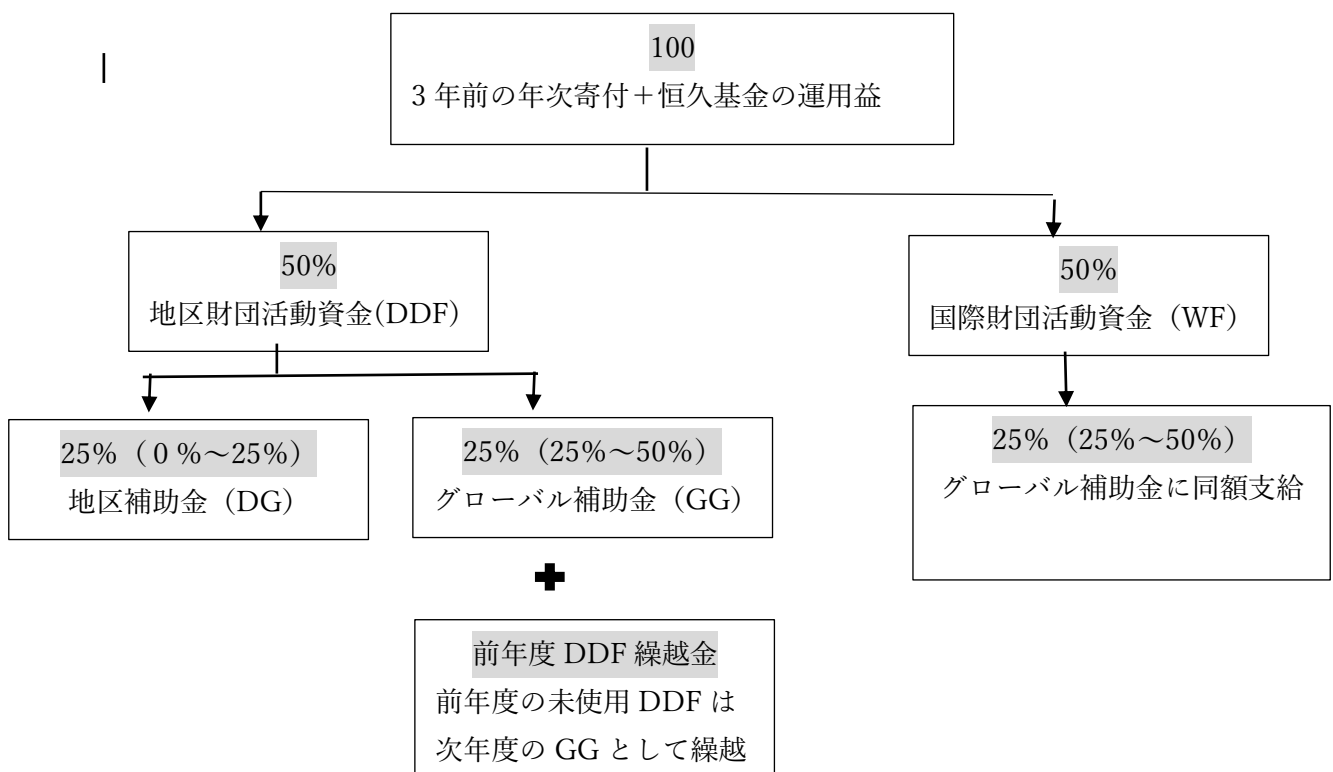
My rotary からカードで直接寄付しても税の優遇措置を受けることができます。

VII. 補助金の資金とシェアシステム

財団補助金の資金

ロータリー財団への寄付は、シェアシステムと呼ばれる仕組みを通じて、人道的プロジェクト、奨学金、職業研修チームの活動を支える補助金に生まれ変わります。地区内のクラブからの年次基金(シェア)へのご寄付はロータリー年度末に、国際財団活動資金(WF)と地区財団活動資金(DDF)に分けられます。

シェアシステム



地区財団活動資金 (DDF) は、地区内の会員・クラブからの年次寄付金と年次寄付金及び恒久基金寄付金の運用益の 50%を 3 年後にクラブや地区、または財団のプロジェクトのために活用できます。DDF の 50%までを地区補助金として使用でき、残りをグローバル補助金、ポリオプラスやロータリーへいわせんたーの支援、ほかの地区への寄贈のために使うことができます。

国際財団活動資金 (WF=World Fund) は、地区の会員・クラブからの年次寄付金と恒久基金寄付金運用益の 50%を 3 年後にロータリー財団が認めた国際的な 7 つの重要分野に取り組む活動に活用することが出来ます。シェアシステムを通じた寄付の 50%が WF となり、ロータリー財団が管理し、地区が申請できる補助金やプログラムの資金として活用されます。

ロータリー財団が認めた 7 つの重要分野とは？

平和と紛争予防/紛争解決 疾病予防と治癒 水と衛生
母子の健康 基本的教育と式辞率向上 経済と地域社会の発展 環境保全

資料 1 田島年度の DDF 配分票

資料 2 シェアシステム例

VIII.補助金の種類

地区補助金

地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援します。地区は、ロータリー財団が定めた「授与と受託の条件」に基づき、募集要項・支給条件・選考方法・配分を決定することができ、この補助金を配分するプロジェクトを独自に選ぶことができる。

地区補助金はさまざまな奉仕プロジェクトにできます。「ロータリー財団の使命を支える活動であること」「ロータリアンが積極的に参加すること」が条件ですが、そのほかに多くの制約はなく、柔軟に活用することが出来ます。

グローバル補助金

グローバル補助金は、ロータリーの7つの重要分野に該当し、実施するプログラムは実施地の地域社会が主導し、その成果が持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援します。補助金プロジェクトのスポンサー（提唱者）は、国際的なパートナーシップを組み、各地の地域社会のニーズに取り組みます。グローバル補助金の利用にあたっては、活動が実施される国のクラブ又は地区と、それ以外の国のクラブまたは地区がパートナーとなって協力することが求められます。また双方のクラブ/地区は補助金を申請する前に、参加資格の認定を受けている必要があります。

予算 30,000 ドル以上の活動が対象となります。そのうち、補助金で賄われる額は最低 15,000 ドルです。（最高支給は 200,000 ドル）。この補助金は、クラブ/地区からの DDF（地区財団活動資金）に対して 100%（同額）、現金寄付に対して 50%（半額）の割合で、財団から WF（国際財団活動資金）の上乗せが提供されます。

「授与と受託の条件」に基づき、地区が募集・申請を支援しますが、クラブはオンラインによる申請をロータリー財団と直接実施し、審査を受けなければいけません。

補助金の資金と種類

